



平成 28 年 3 月 10 日 (木) に岩手県民会館大ホールにて挙行された平成 27 年度岩手医科大学卒業式 (卒業生名簿は 6~7 頁に掲載、オーケストラは本学オーケストラ部)

# 主 陵 会 々 報

発行所  
岩手医科大学主陵会  
〒020-8505盛岡市内丸19の1  
Tel 019(651)5111番  
Fax 019(624)8380番  
E-mail: info@keiryokai.gr.jp  
URL http://www.keiryokai.gr.jp  
題字 三田定則 先生書成  
発行人 人石川 育成  
編集人 前沢 千早  
印刷所 山口北州印刷

4 月 号

目 次	
役職人事	1
教授就任のご挨拶	2
選定・年退職のご挨拶	3
創立百二十年周年記念事業券金	4
平成二十七年卒業生名簿	5
本学主催学会開催予定	6
學術振興会共同研究成果要旨	8
主陵会本部だより	9
代議員会・総会開催案内	16
主陵会役員選挙の公示	17
医学部同窓会だより	17
評議員会・総会開催案内	23
医同窓会役員選挙の公示	23
歯学部同窓会だより	23
評議員会・総会開催案内	23
歯同窓会役員選挙の公示	23
お祝い・国試結果	23
トビックス	23
ご逝去・編集後記	23

4039322727

## 岩手医科大学役職者人事

平成 28 年 4 月 1 日付

- |                                |            |               |
|--------------------------------|------------|---------------|
| 理事長                            | 岩手看護短期大学長  | 小川 彰 先生 (再任)  |
| 副学長 (総務・岩手県高度救命救急センター担当)       | 岩手看護短期大学担当 | 祖父江憲治 先生 (新任) |
| 副学長 (岩手県こころのケアセンター・岩手看護短期大学担当) |            | 小林誠一郎 先生 (新任) |
| 副学長 (歯学部改革担当)・歯学部長             |            | 酒井 明夫 先生 (新任) |
| 医学部長 (口腔医学講座歯科医学教育学分野 教授)      |            | 三浦 廣行 先生 (再任) |
| 医学部長 (兼全学教育推進機構長)              |            | 佐藤 洋一 先生 (新任) |
| 薬学部長                           |            | 名取 泰博 先生 (新任) |
| (衛生化学講座 教授)                    |            | 松政 正俊 先生 (新任) |
| 教養教育センター長                      |            | 増田 友之 先生 (新任) |
| (教養教育センター生物学科 教授)              |            | 佐塚 泰之 先生 (再任) |
| 学生部長                           |            | 中島 理 先生 (新任)  |
| (病理学講座機能病態学分野 教授)              |            | 寺山 靖夫 先生 (新任) |
| 学生副部長                          |            | 藤井 勲 先生 (新任)  |
| (創剤学講座 教授)                     |            | 杉山 徹 先生 (新任)  |
| (教養教育センター化学科 教授)               |            | 土井田 稔 先生 (新任) |
| 図書館長                           |            | 黒坂大次郎 先生 (新任) |
| (内科学講座神経内科・老年科分野 教授)           |            | 鈴木 健二 先生 (新任) |
| 図書館分館長                         |            |               |
| (天然物化学講座 教授)                   |            |               |
| 附属病院長 (兼岩手県高度救命救急センター長)        |            |               |
| (産婦人科学講座 教授)                   |            |               |
| 附属病院副院長                        |            |               |
| (整形外科学講座 教授)                   |            |               |
| (眼科学講座 教授)                     |            |               |
| (麻醉学講座 教授)                     |            |               |

# 教授就任のご挨拶

平成二十八年一月一日付



総合基礎講座 医学教育学講座  
地域医療学分野(新設)

教授 伊藤 智 範

主陵会会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことと存じます。このたび、医学教育学講座地域医療学分野を担当させていただくこととなりましたので、紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。この分野は、全国で開設が増えている医学教育と密接な関係にある地域医療学を担当する部署となります。

## 臨床家と地域医療の接点

私は、平成二年に本学を卒業し、秋田大学で研修医となり、医師のキャリアをスタートさせました。循環器を志した理由は、急性期の医師のプライマリケアの裁量と、当時開始されて間もないカテーテル治療が、その後の患者さんへの生死への影響を大きくする冠動脈疾患の集中治療に強い興味を持ったためです。平成四年から本学旧第二内科へ入局させていただき、研鑽を積ませて頂きました。一例一例を大事に、患者さんをよく診て、臨床的問題を抽出し、個々のデータを多数例にして検証して、研究もできる臨床医を目指して研修してまいりました。平成七年から国立循環器病センター(現・国立循環器病研究センター)内科心臓部門で全国から集まる優れたレジデントに交じって、世界に通じる全国レベルの臨床の考え方を学びました。当時の野々木宏先生らのご高配により、研究所生体工

学部でカテーテル開発の基礎研究にも従事させていただく機会もいただきました。その後、本学循環器医療センター開設当時から七、〇〇〇例を超える症例の収容に携わり、地域の病院勤務を経て、平成二十四年までCCU室長・ならびにカテーテル治療責任者として主な症例を経験いたしました。

最近では、森野慎浩教授と中村元行教授のご指導により、本学独自の研究や全国的な多施設臨床研究などに携わることをでき、岩手県、ならびに本邦の問題点を検証してまいりました。

とくに東日本大震災後、大学病院へ収容する症例だけでなく、広い岩手県全体を考慮するようになりました。次の自分に課せられた課題とは、地域の問題を解決することであると認識しました。そして、震災での循環器診療の経験を踏まえ、各方面からのご尽力により、県民へ還元できる地域医療の検証を行うことを目的として、行政とタイアップして循環器救急疾患の実態調査を主な目的とした岩手県心疾患登録事業が動き出しました。

ミングを育てることです。一方で、そのエリアで完結させる包括的医療への対応能力をも育てることも必要です。言い換えればプライマリケアなどの総合力の教育です。さらに、高度成長時代とは異なり、人口減少時代になり、次の地域医療構想が策定されるなかで、その地域での医療を持続させるには、どういう工夫が必要なのかを地域住民とともに考えることも必要です。小山耕太郎教授が中心となり、震災後々に運用が進んでいる遠隔診療システムなどのIT機器も地域医療を支える重要なインフラで、岩手オリジナルの地域医療を考えてまいります。医学部長・医学教育学講座佐藤洋一教授はじめ各方面からのご指導を仰ぎながら、学内外から広くご意見をいただき、国際認証評価に耐えうる、広大な岩手県ならではの新たな地域医療実習システム構築とそれに関連した教育と研究を推進します。

## 二十一世紀医学部への黒船

今世紀になり、指数関数的に膨張する医学知識をどう学生に伝授するのか、さまざまな教育手法が開発・導入されつつあります。小生が学生のころとは、雲泥の格差です。いま、その流れについていけなくては、医学部教員としての立場を失うことにもつながりかねません。どちらかといえば、長らく研究が主眼となっていた医学部が極めて大きな変革を迎えています。臨床・研究を主体にされていた先生方にとっては、独特の教育用語など馴染みがまだないかもしれません。本学が、世界標準の医学教育を施しているという担保のために、近い将来に本学が受審する医学部評価である分野別認証評価は、医学部にとって、間違いなく二十一世紀の黒船です。

でなく、幅広い「医療」教育することが求められています。この結果、診療に参加しながら医師の職務を経験させる診療参加型を含めた臨床実習を七十二週間以上とし、そのうち六週間の地域医療実習をすることになります。この地域医療実習システム構築には、さまざまな病院以外の施設での実習も必要とされています。このためには、主陵会会員の先生方からの幅広いご理解とご協力が絶対不可欠です。

また、本学には現在の三学部に加え、さらに看護学部が開設されます。その結果、「医療」教育が求めている極めて有機的な多職種連携が可能全国的にもまれな大学が誕生します。幸い、各学部同一の矢中キャンパスには、佐藤洋一教授の主導により、新たな教育手法を取り入れたブラスがすでに構築されており、多学部の学生が疑似的に学べる環境も整備されておりあります。この二十世紀を見ない手はありません。この二世紀を見据えながら、早期からの臨床体験実習を生かしながら、岩手医大が地域医療・多職種連携時代の代名詞となるべく、医療に必要な学部横断的連携を強化する方針です。

本学は、私学の立場であるとともに、一県一医大構想の観点からは、地域医療も建学の精神になっており、至上命題の一つです。母校で教授として学生指導ができる喜びをモチベーションとして、本学の医学教育を発展させてまいります。そして、岩手医科大学の理念「医療人たる前に、誠の人間たれ」という全人的地域総合医療を推進する部門と存じます。臨床家からこの世界に飛び込んだ身としては、まだまだ浅学非才であります。主陵会の先生方からも忌憚のないご意見とご指導を頂き、職務に邁進する所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。